

未来の子どもたちにより良い教育環境を

～学校統廃合を含めた通学区域の見直しをするための考え方を決定しました～

お問い合わせ 教育総務課 ☎ 042・724・2172

教育委員会では児童・生徒数の減少(図1)や学校施設の老朽化(図2)を契機として、町田市立学校のより良い教育環境を整備し、充実した学校教育を実現するため、2019年8月27日に審議会を設置しました。審議会では、現在だけではなく、10年後、20年後に町田に生まれ育つ未来の子どもたちの立場の視点から、ソフト・ハードの両面からより良い教育環境を整備し、充実した学習環境の実現に向けて調査審議がされました。その審議の結果、学校ごとの学級数や学校施設機能といった教育環境の違いがもたらす学校教育上、学校経営上の課題を解決するために必要となる、「1学年あたりの望ましい学級数」や「その学級数の実現を目指した望ましい通学区域や学校配置のあり方」について、2020年1月24日に答申されました。

教育委員会では、この答申に基づき、2020年3月2日に、学校統廃合を含めた通学区域の見直しをするための考え方である「町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」を決定しました。詳しくはホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

図1 児童生徒数の将来推計

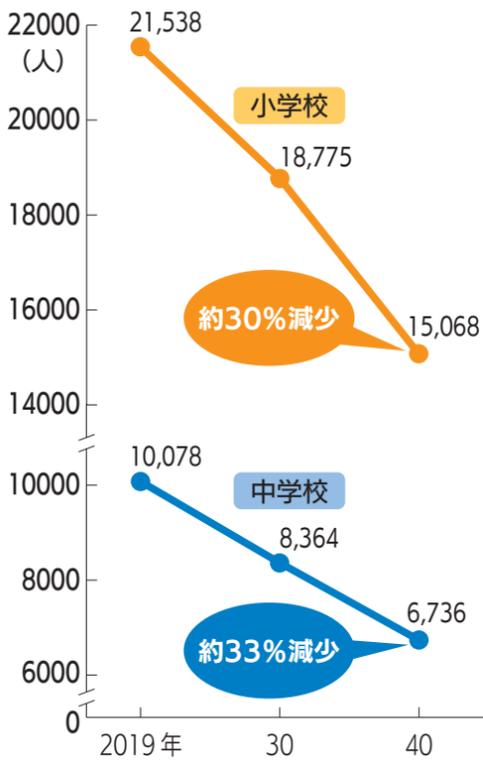
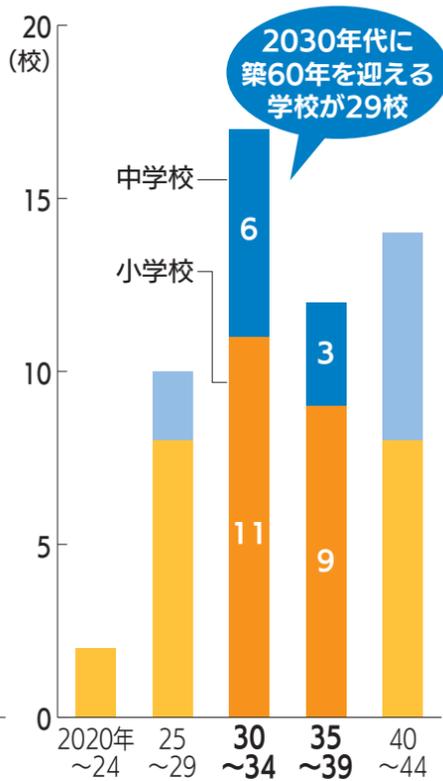


図2 築60年※を迎える時期と学校数



※鉄筋コンクリート造(耐用年数60年)の学校施設を建て替えるまでの平均年数は約42年となっています。(文部科学省調査)

適正規模の基本的な考え方

町田の未来の子どもたちにより良い教育環境(望ましい教育環境)をつくるために必要となる1学年あたりの学級数です。
小学校：3～4学級(1校あたり18～24学級)
中学校：4～6学級(1校あたり12～18学級)
※適正規模となる学級数を上回るまたは下回る学校について、2020年度の審議会において、学校統廃合を含めた通学区域の見直しを検討することになります。

適正配置の基本的な考え方

1学年あたりの望ましい学級数の実現を目指した望ましい通学区域や学校配置のあり方です。
①通学時間及び通学距離の許容範囲(目安)
②安全な通学環境
③地域社会との関係
④小・中学校区の整合について
⑤通学区域内における学校の位置について



詳細は町田市ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。
※QRコードからもアクセスできます。

「第2期町田市特別支援教育推進計画」を策定しました!

児童・生徒一人ひとりのニーズに応える教育を実現するために町田市の特別支援教育の特徴と概要、切れ目のない支援の体制を示し、特別な支援を必要とする子どもたちがライフステージが変化しても途切れることなく必要な支援を受けられるよう「第2期町田市特別支援教育推進計画」を策定しました。

お問い合わせ 教育センター ☎ 042・793・2481

第2期町田市特別支援教育推進計画の3つの基本目標と主な施策

● 特別支援教育を推進する環境・体制の整備

★「障がいがあっても地域の学校へ通いたい、通わせたい」という声に応え、これからも特別支援学級・教室の整備を推進していきます。

主な施策

- 2021年度までに中学校全校にサポートルームの設置
- 2022年度まで特別支援学級を毎年1校ずつ設置
- 子どもの学校生活を支援する特別支援教育支援員の適正な配置

授業を受けやすくなるので学校に行くのが楽しみです!



● 特別支援学級・特別支援教室における指導力の向上

★特別教育支援の教員の指導力の向上のみならず、通常学級の教員など全教員が特別支援教育をより深く理解できるようにします。

主な施策

- 経験年数に応じた町田市独自研修の実施
- 特別支援教育のモデル教員及び推進モデル校の指定
- 研修やOJTの際に活用できる教員向けハンドブックの作成

学校や教員に対して多くの支援があるんですね!!



● 切れ目のない支援体制の構築

★様々な機関と連携して、乳幼児期から学校卒業後の社会参加までの切れ目のない支援体制を構築し子どもたちを支えるとともに、特別支援について社会との相互理解を促進します。

主な施策

- 就学相談、進学相談、教育相談等の充実
- 都立町田の丘学園、医療関係者及び関係機関との連携の充実
- 保護者や市民に向けた特別支援教育に関する講座の実施

今後ますます特別支援教育が充実するから安心だね!

